

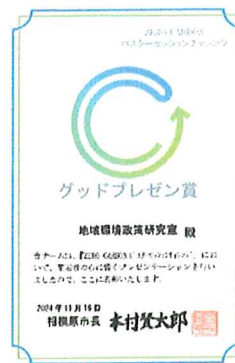
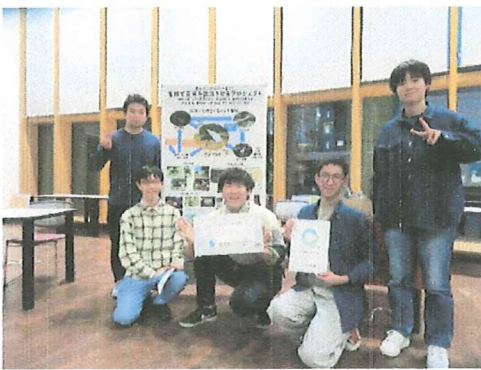
青根炭窯講中は炭窯と薪炭林を復活させたい

1) 経緯

麻布大学の学生・教員・市民は「あざおね社中」というグループを結成し、2011年から相模原市緑区青根の休耕田を復活させた水田を拠点に、米を作りながら、生物多様性の把握、環境学習・ESD、環境まちづくりをしている。

田んぼの水の管理をして下さっている佐藤友市さん(90)は元炭焼き職人であり、6年前まで自ら設計・施工した炭窯で炭を焼いていたことを知った。

2024年11月16日の相模原市主催 ZERO CARBON ポスターセッションチャレンジ2024で学生たちは「青根で炭窯を復活させるプロジェクト」で「グッドプレゼン賞」を受賞した。これをきっかけに、青根の炭窯復活は実装の段階にはいった。実装の主体となるのが「青根炭窯講中」である。



2) 現状

佐藤友市氏の指導を受けながら3月から炭窯の修理を行う。

木炭となる原木は、県からの委託で青根の水源地林整備をしている(有)サトウ草木が、山主さんの許可を得て伐採した広葉樹の原木を炭窯まで運搬してくれることになった。3月末まで森林整備があるため、伐採した原木の運搬は4月になる予定である。ゴールデンウィークには炭焼きを行う予定である。

3) 広葉樹の植樹

(有)サトウ草木の高城社長とお話したところ、薪炭林の広葉樹は巨木化しており、根を残して伐採しても萌芽更新は起きない可能性が高い。薪炭林を将来も活用するには植樹の方が良いが、企業が実施するには採算が取れない。そこで、麻布大学やあざおね社中、青根の住民が主体となって広葉樹を育てて、植樹することにした。しかし、私たちも、佐藤友市さんや青根住民も、広葉樹の育苗や植樹の知識も経験もない。

神奈川県立公園の3分の2を指定管理する(公財)神奈川県公園協会に相談したところ、公園のドングリの育苗を社会福祉法人進和学園に委託していることを知った。

4) 苗をどうするか?

青根の薪炭林はシラカシ・コナラ・ケヤキが主であった。これらの苗を入手できたら、青根の畑で育ててから、薪炭林に植樹したい。10~15年後には炭の原木として活用したい。

